

進路だより No. 19



平成23年3月7日

進むべき道の岐路に立った中学校3年生を、今まさに終えようとしています。
もう、道を決めた人も、まだ、決まっていない人も明日は卒業という、人生の節目を迎えます。

147 本の新しい道が始まる

過ぎてしまえば短く感じる中学校3年間だったことでしょう。中でも、自分の進路を求めて苦しんだこの一年は、人生の中でも中身の濃いものだったことでしょう。

どの道を進むと決めるかは、とても大切なことです。でも

進んだ道で、どう生きるか

は、もっと大切なことです。

誰かに代わって歩いてもらうことはできません。振り返っても振り返っても、後には戻れません。ならば、進んだ道で、自分に出来ることを精一杯やること。誠意をもって、事にあたること。それが、また、新たな自分の進む道^{ひら}を拓くことになります。どの道に進んでも、前を向いて歩んでください。

就職する人へ

これまでとは全く異なった生活が、いよいよはじまります。最初は精神的にも、肉体的にも、疲れることが多いです。でも、それが普通なのです。休まず、怠けず、自分の仕事に、自信と誇りを見つけてほしいと思います。「君がいてくれてよかった」「君ならこれを任せられる」一生懸命働けば、人は信頼を寄せてくれます。それは、働くことへの自信、喜びにつながっていきます。社会人として一緒にがんばりましょう。勉強はやってみようと思った時がスタートです。社会にでてから、「勉強してみようかな」と思ったら、中学校に来てください。

進学する人へ

就職難や、不況で、社会は厳しい現実にあります。そして、日本では、多くの高校で中途退学者がいるのも現状です。中途退学者の多くが、「自分の抱いていた高校のイメージと現実との差が激しい」と言っています。その人たちが描いていた高校のイメージというものは、どんなものなのか。義務教育を修了してまでも、勉強を続けるということの意味を今一度、考えておきたいものです。

公立一般を受検するみなさん。よい結果がでることを、心より祈っています。
受検日まで、万全の体調を保つようにしてください。

